

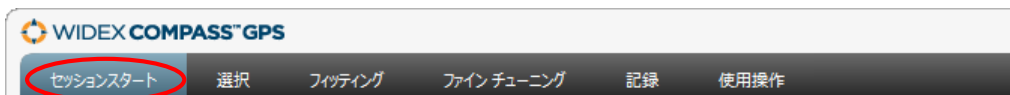
○故障していないか、確認する - 品質確認

補聴器の設定は調整状態に関係なく、品質確認のテスト用の状態になります。擬似耳で測定した場合、取扱説明書やテクニカルデータの値と比較できます。

1. 補聴器を「**接続**」します。



2. 「セッションスタート」画面で「**品質確認**」をクリックします。



3. 「**規準の状態(RTG)**」をクリックします。

最大音響利得を測定する場合は、「**最大利得(FOG)**」を選択します。



4. 「**マイク無指向性**」にチェックし、「**テスト開始**」ボタンをクリックします。



5. 「**続行**」ボタンをクリックします。



6. **USBlinkまたはnEARcomから補聴器を離して構いません。**
補聴器を特性装置に**セット**し、特性測定を行います。



7. 測定が終わったら、**補聴器をUSBlinkまたはnEARcomの通信範囲に入れ、「停止」ボタンをクリック**します。



通信範囲内がない状態で、「**停止**」ボタンをクリックすると、下の画面が出てきます。



この画面が出たら「**再検索**」ボタンをクリックします。

○故障していないか、確認する - 品質確認

補聴器の設定は調整状態に関係なく、品質確認のテスト用の状態になります。
擬似耳で測定した場合、取扱説明書やテクニカルデータの値と比較できます。

1. 補聴器を「接続」します。



2. 「セッションスタート」画面で「品質確認」をクリックします。



3. 「リニアテストモード」をクリックします。

最大音響利得を測定する場合は、「最大ゲインテストモード」を選択します。

4. 「マイク無指向性(リニアテストモード)」にチェックし、「テスト開始」をクリックします。

5. USBlinkまたはnEARcomから補聴器を離して構いません。
補聴器を特性装置にセットし、特性測定を行います。



6. 測定が終わったら、補聴器をUSBlinkまたはnEARcomの通信範囲に入れ、テストモード停止「OK」ボタンをクリックします。



通信範囲内がない状態で、「OK」ボタンをクリックすると、下の画面が出てきます。



この画面が出たら「再検索」ボタンをクリックします。

BEYOND/UNIQUE/DREAM/DAILY 特性測定

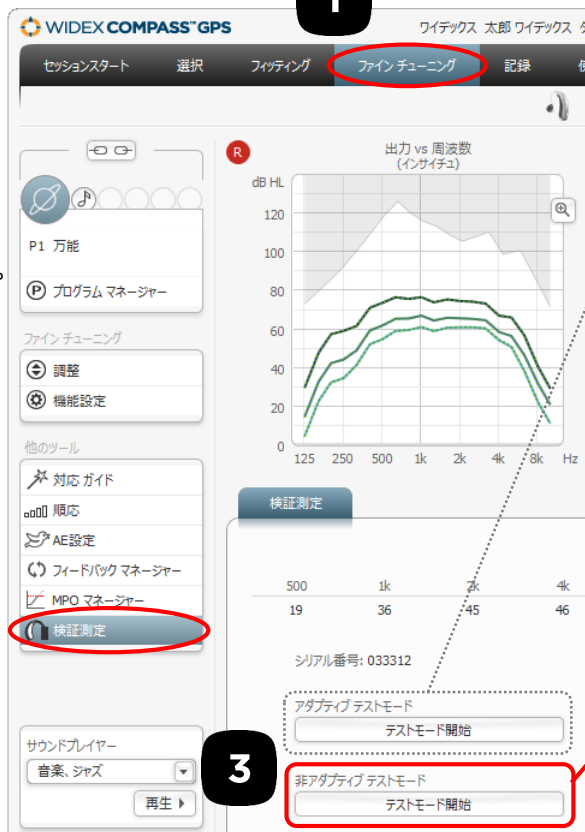
○調整状態の記録 - ユーザー設定での特性 (従来の「テストモード2」と同じ測定)

1. 補聴器を「接続」します。



2. 補聴器をユーザー設定の特性測定に適した状態にします。

① 「ファインチューニング」をクリック。



アダプティブテストモード

ISTSのような変調された信号で測定する場合に使用します。

テストモード中、選択されたプログラムのゲイン設定、機能設定の状態で、マイクモードは無指向性になります。

純音スイープによる測定の場合 ……非アダプティブテストモード

純音やスピーチノイズのように変調されていない信号で測定する場合に使用します。

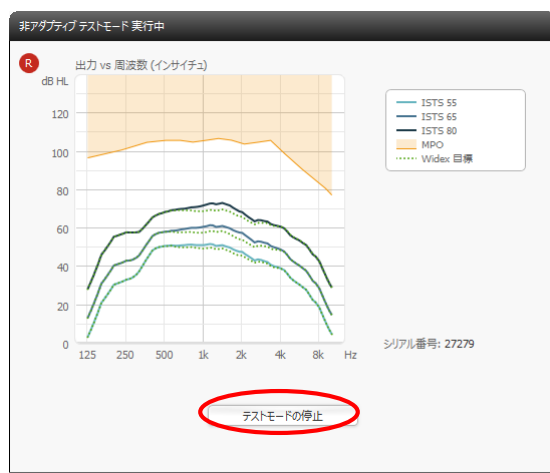
テストモード中、選択されたプログラムのゲイン設定は維持されますが、ゲイン制御のスピードは速くなります。騒音制御・フィードバックキャンセルはオフとなり、マイクモードは無指向性になります。

従来の「テストモード2」と同じ

3. USBlinkまたはnEARcomから補聴器を離して構いません。
補聴器を特性装置にセットし、特性測定を行います。



4. 測定が終わったら、補聴器をUSBlinkまたはnEARcomの通信範囲に入れ、「テストモードの停止」ボタンを押します。



通信範囲内がない状態で、「テストモードの停止」ボタンをクリックすると、下の画面が出てきます。



この画面が出たら「再検索」ボタンをクリックします。